

講義名	教養特講 (東洋史)			
担当教員	小野 達哉			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要
 中国古代・中世史を、政治史・制度史を中心に概説する。中国の歴史は、皇帝を頂点に廣く官僚制度に支えられた、中央集権国家を樹立した点に歴史的特質をもつ。この講義で扱うのは、中国における国家の出現から、皇帝支配の確立と動搖を越えた後、その再建に至るまでの過程である。こうしたテーマについて、皇帝支配を下から支えた当時の政治・社会の構造と関連付けて説明していく予定である。

到達目標
 中国史の基本事項について理解し説明できる。
 東アジア史上の文化交流について理解し説明できる。
 中国の伝統的あり方について理解し説明できる。
 中国の近代化像について理解し説明できる。

提出課題
 毎回授業時に実施する小テスト

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
 毎回の授業時におこなう小テストで、学生の講義の理解度を確認し、それに必要に応じてコメントを付けて返却するつもりである。ただし、受講生の人数が多数に上った場合は、テスト返却が不可能になることを予めお断りしておく。

評価の基準
 毎回授業時の平常点と、まとめテストの総合評価とする。

履修にあたっての注意・助言他
 この講義は予備知識は必要としないので、その点は安心して受講してくれてよい。ただし、東洋史に限らず、日本史・西洋史など歴史全般に関心を持ってもらいたいと思う。なお、新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバスは修正される可能性がある。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献
 講義ではプリントを使用する。参考文献は授業時に随時指示する。

授業計画
 【第1回】 中国における国家の起源
 【第2回】 強土国家への過程
 【第3回】 皇帝支配の出現
 【第4回】 郡県制と封建制
 【第5回】 古代の国家科序と社会習俗
 【第6回】 中華思想の成立
 【第7回】 漢と匈奴の交渉
 【第8回】 分裂の時代
 【第9回】 貴族制社会の成立
 【第10回】 胡族国家の出現
 【第11回】 漢の隆一と中央集権
 【第12回】 漢の隆一と唐の太宗
 【第13回】 律令体制の崩壊
 【第14回】 律令体制の形成と展開
 【第15回】 兩税法の形成と展開

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 【第1回】 予習：シラバスを熟読する（120分）。 復習：レジュメと史料の内容を確認する（120分）。
 【第2回】 予習：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる（120分） 復習：レジュメと史料の内容を確認する（120分）。
 【第3回】 予習：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる（120分）。 復習：レジュメと史料の内容を確認する（120分）。
 【第4回】 予習：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる（120分）。 復習：レジュメと史料の内容を確認する（120分）。
 【第5回】 予習：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる（120分）。 復習：レジュメと史料の内容を確認する（120分）。
 【第6回】 予習：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる（120分）。 復習：レジュメと史料の内容を確認する（120分）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 全学対象の教養科目であることを鑑み、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身に付けておくべき資質・能力」(1)～(5)の習得を目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
 授業は学生に随時質問しながら進めるが、特段ICTを活用することはない。

実務経験の有無及び活用
 なし

備考
 なし